

7日目 5月4日

会 場： 県立浜山球場

第2試合		～準決勝～																	
T E A M		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E
立正大淞南		1	1	3	2	0	0	0	1	0							8	8	1
邇 摩		0	5	0	0	1	0	1	0	0							7	9	0
(投手-捕手)																			
・ (淞)		松崎→勝部→西田 - 昆澤→勝部																	
・ (邇)		柳原→品川 - 白石																	
(長 打)		(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)					
・ (淞)		竹内、大館						酒井						酒井、西田					
・ (邇)		竹下												松尾					
(審判)〔球審〕		平安山				〔一塁〕 城市				〔二塁〕 本田				〔三塁〕 中島					
(チーム成績)																			
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守備	失	暴	ボ	逸	打妨	
(淞)	44	8	8	2	1	2	1	12	1	1		1		1	1	0	1	0	
(邇)	42	9	6	1	0	1	7	6	1	2		0		0	1	0	0	0	

「立正大淞南、連覇に王手！」

打力のあるチームどうしの乱打戦となった。立正大淞南は相手先発の変則投手から、所々で打ち損じて併殺などで大量得点はならなかったが、酒井の3塁打などを起点に四死球を生かし2点を奪ったが、2回裏に先発の松崎の制球が乱れ満塁とし、押し出しと松尾の満塁本塁打でこの回に一举5失点し逆転を許した。しかし、相手投手も四死球で崩れて3回表に立正大淞南が坂川の適時打と大館の適時2塁打で同点に追い付くと、4回にも2点を奪い再び主導権を握った。しかし、5回裏に継投した勝部が味方守備の乱れに捕逸と暴投で1点差に詰め寄られると、7回裏には走塁ミス嫌な流れを断ち切り2死からの連打で邇摩が同点に追い付いた。しかし、7回から3番手として継投した西田が邇摩のエース品川の肩口から入るスライダーをスタンドへ運び、これが決勝点となった。品川は7四死球も被安打はこの本塁打だけに抑えていただけに悔いの残る1球となった。

